



**ソフトバンクグループ株式会社**

2026年3月期 第3四半期 決算説明会

2026年2月12日

## 免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。証券の募集、購入の申し出の勧誘、又は証券の売出しは、1933 年証券法（その改正を含む。以下、「証券法」という。）の登録要件に従って行われます。本資料に含まれる情報は、証券法ルール 135 に従って記載されるものです。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、Arm 及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」 ([https://group.softbank/ir/investors/management\\_policy/risk\\_factor](https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)) をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。商標について本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

## 重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設定又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や LINE ヤフー株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

## 本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社（以下併せて「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 1」）、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド 2」）及び SBGA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレ

ル・ファンド、リーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。

SB ファンド (ビジョン・ファンド 1 及びビジョン・ファンド 2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があります。個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因 (例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。) に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA 及び SBIA は、ビジョン・ファンド 1、ビジョン・ファンド 2 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ個別独立した業務プロセスを採っています。SBGA 又は SBIA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独又は SBIA 単独で運用されています。

## [登壇者]

取締役 専務執行役員 CFO 兼 CISO 兼 GCO

常務執行役員 CAO 兼 CSusO

SB Investment Advisers & SB Global Advisers

Executive Managing Partner & CFO

Arm Executive Vice President and Chief Financial Officer

後藤 芳光（以下、後藤）

君和田 和子

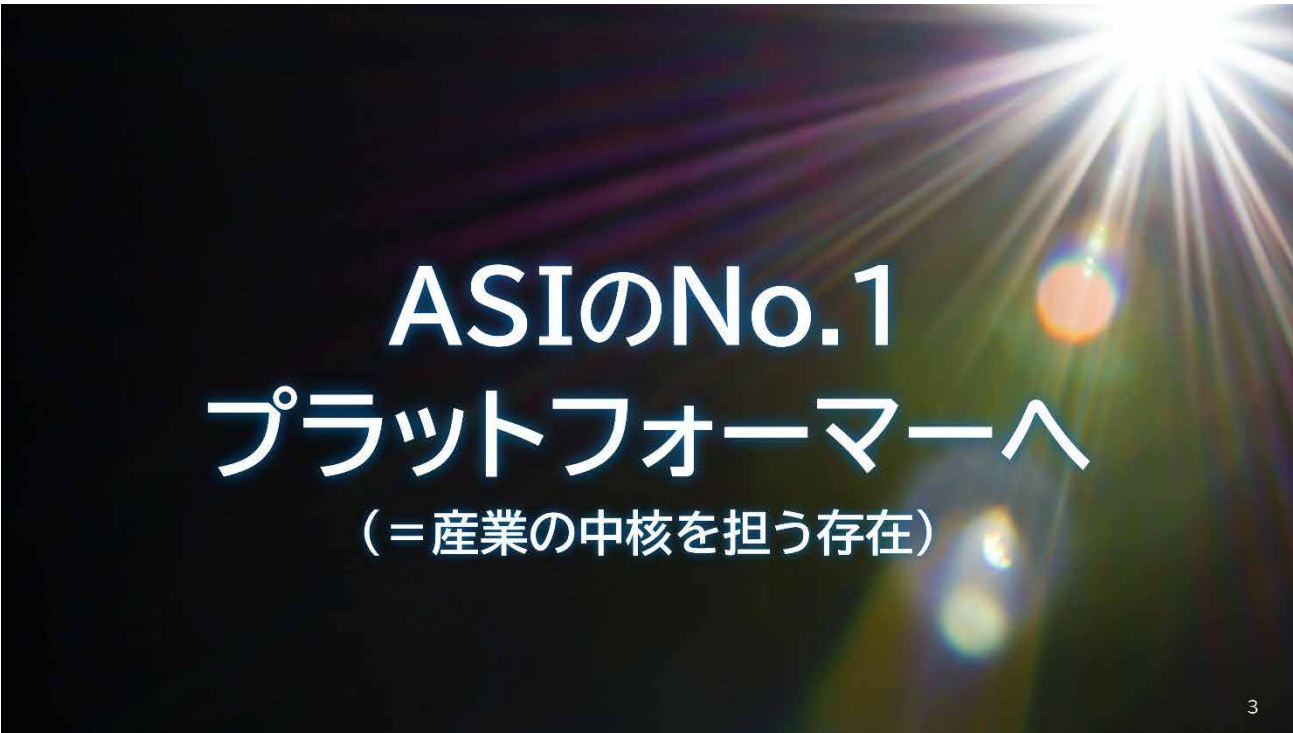
ナブニート・ゴビル

ジェイソン・チャイルド

## 登壇

---

**司会：** それでは後藤より、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）の連結決算概要および事業概要につきまして、ご説明申し上げます。



# ASIのNo.1 プラットフォームへ (=産業の中核を担う存在)

3

**後藤：** それでは、まず今回の決算発表のテーマです。ソフトバンクグループは ASI 時代の No.1 プラットフォーマーを目指す。

プラットフォームとは何だという議論が常にあります。前回、孫さん（孫 正義 代表取締役 会長兼社長執行役員）が去年の株主総会で、今から 10 年後にソフトバンクグループは ASI の No.1 プラットフォーマーになると話したことを紹介しました。プラットフォームとは、産業の中核を担う存在という言い方もできます。さまざまなコンテンツ、サービス、技術など、あらゆるものを乗せるような土台をわれわれが築いていけるといいのかなと考えています。

われわれにないものを、どんどん吸い寄せられるようなプラットフォームとして成長できることが、ソフトバンクグループに与えられた使命なのではないかと思えます。

創業ビジネスはソフトウェアの卸売ですが、先日、孫と話をしていたとき、彼は「自分は創業のビジネスが卸売業だと思ったことは一度もないのだ」と申していました。確かに、そのとき世の中になかったソフトウェアを、とにかく皆さまにお届けするシステムを作っていくプラットフォームとして、ビジネスをスタートしたということなのです。

例えば、ソフトウェアが何であるかを知らしめるためのさらなるサービスとして出版やメディア事業を始めたり、いろいろなものをプラットフォームに乗せていくということを、創業当初からやっていたと思います。

2000年代を迎えてインターネットの時代が始まって、プラットフォーマーという考え方はよりわれわれのグループの中に強く意識される時代になりました。そして今、AIの時代、そしてASIを目指していく中で、ソフトバンクグループはプラットフォーマーという位置づけを目指していきたいと思います。



着々と布石は打てていると思います。

# OpenAI

2025年12月

**\$22.5B(3.5兆円)の追加出資完了**

**累計出資額\$34.6B(5.4兆円)で持分約11%**

2026年1月

**Stargate推進へ、子会社SB Energyが戦略提携**

1ドル=156.17円で換算

5

OpenAI への 225 億米ドル、3.5 兆円の大型追加投資が 12 月末で完了しました。累計出資額は 346 億米ドル、つまり 5.4 兆円になり、OpenAI 株式の 11%を持分として保有するに至りました。

また、Stargate Project を進めていくための戦略的提携として、SB Energy と SBG、OpenAI が戦略提携し、SBG、OpenAI の両社が SB Energy に出資しました。

ロボット

**ABB**  
Robotics

**\$5.4Bでの買収発表**  
(2025年10月)

チップ

**AMPERE**<sup>®</sup>

**\$6.5Bの買収完了**  
(2025年11月)

デジタルインフラへの投資会社

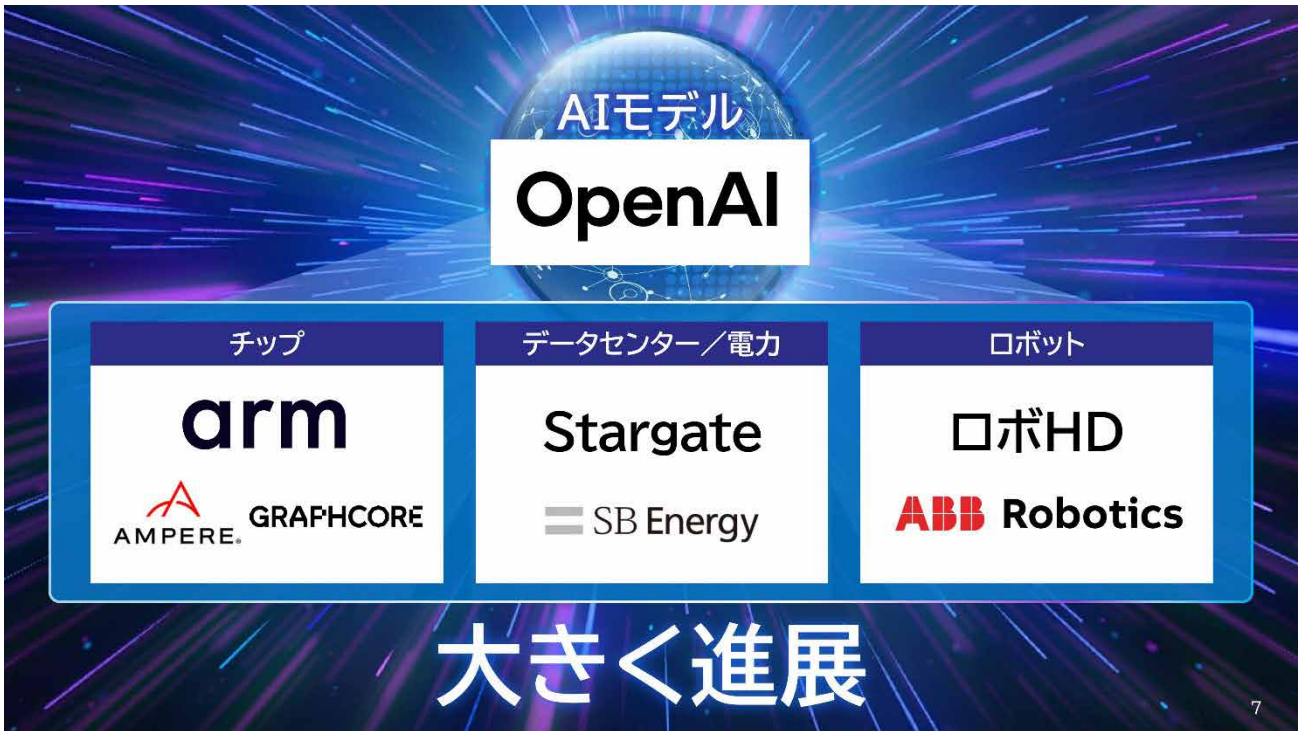
**DIGITALBRIDGE**

**\$3.1Bでの買収発表**  
(2025年12月)

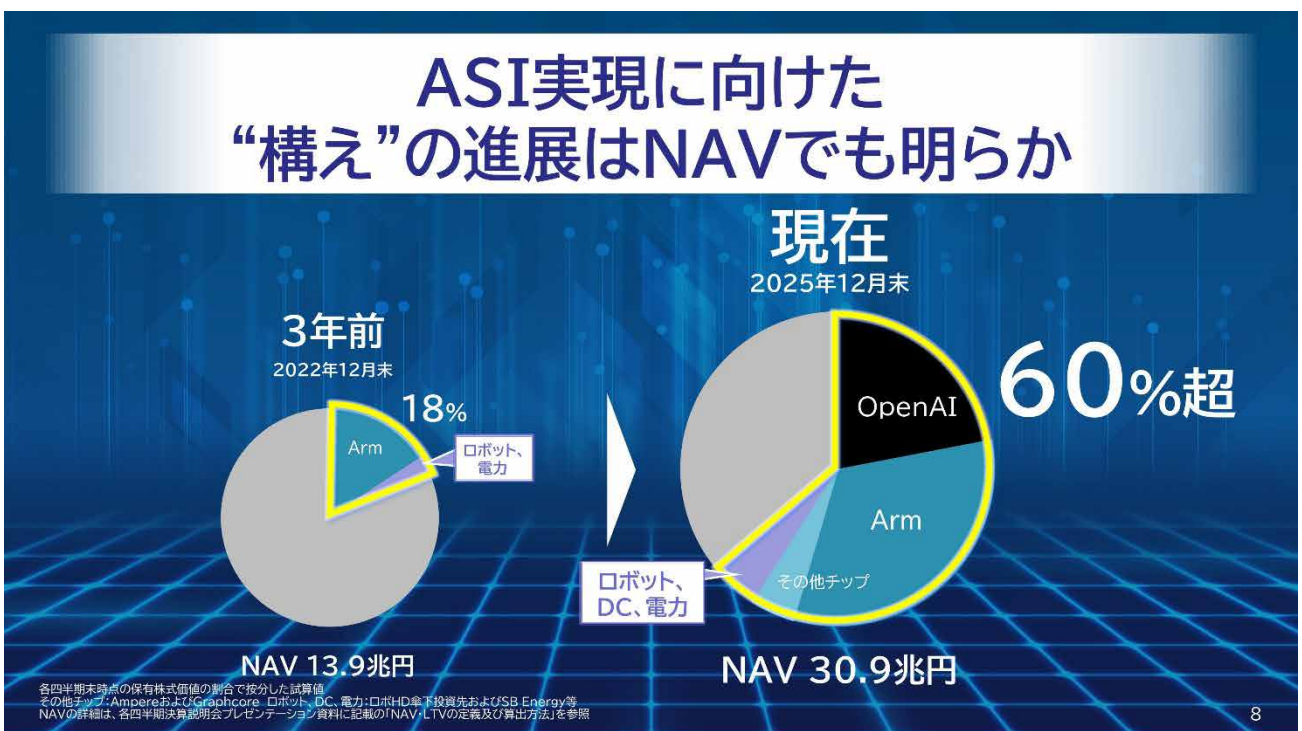
6

OpenAI 以外の進捗もあります。まず、ロボティクスの分野で、世界的な企業である ABB のロボティクスの分野を 54 億米ドルで買収することを発表しました。また、チップの分野では 65 億米ドルでの Ampere 買収を完了しました。これらはすべて、第 3 四半期に起きた事象です。

そして、デジタルインフラへの投資会社である DigitalBridge を、31 億米ドルで買収するという発表を 12 月に行いました。こうした一つ一つのプロジェクトが布石になっていると思います。



これらは ASI 実現に向けた構えの進展と言えます。大きな座組みは着々とできています。



われわれのポートフォリオの変化も見逃せない部分です。3年前に事業分類別に見たとき、ASI 実現に向けたポートフォリオは、Arm を中心とするポートフォリオに限られていました。

あとは若干、ロボットと電力がありましたが、われわれのポートフォリオの約 18%に過ぎないという時代でした。現在は、まず Arm が成長しています。それに加えて、OpenAI やロボット、データセンター、その他を加え、60%超が ASI 実現に向けたポートフォリオと言えるのではないのでしょうか。

## 2025年度Q3決算ハイライト

SoftBank Group

**1 OpenAIへの追加出資完了、持分約11%に**  
ASIに向け他の投資も強化を継続

**2 Q1-Q3の純利益 3.17兆円** (前年同期比+2.54兆円)

**3 NAVは30.9兆円** (2025年9月末比▲2.4兆円)

**4 財務方針を堅持しながら大型投資を実行**  
**LTV 20.6%** 手元流動性 **3.8兆円**  
(2025年9月末比+4.1ポイント) (同▲0.5兆円)

純利益：親会社の所有者に帰属する純利益

9

さて、数字面での決算ハイライトを整理しました。まず 1 番は、OpenAI への追加出資が完了し、持分が約 11%になりました。そして 2 番目、第 3 四半期累計期間 9 カ月の純利益が 3 兆 1,700 億円。非常にいい結果だと思います。前年同期比で 2 兆 5,400 億円のプラスです。

3 番目は Net Asset Value (以下「NAV」) です。われわれのグロスの資産から純有利子負債を引いた正味のアセットが、12 月末で 30 兆 9,000 億円です。これだけ見ると、9 月末との対比で 2.4 兆円のマイナスです。ただ、直近はまた改善していて、今朝の数字だと約 33 兆円まで回復しています。9 月末と比べてほぼとんとんというところでしょうか。

また、財務方針を堅持しながら、大型投資を実行してきました。OpenAI の追加投資も含めたこの 1 年の総投資額は 6 兆円を超える数字になっていますが、皆さまに表明している財務方針を堅持しながらやっています。これだけの投資を行っていますが、Loan to Value (以下「LTV」) も 20.6%、手元流動性も 3.8 兆円を維持している財務状況です。LTV も、今朝の数字では 20%を切って 19%台です。

# 連結業績

(億円)	2024年度 Q1-Q3	2025年度 Q1-Q3	増減額
売上高	53,026	57,192	+4,167
投資損益	21,700	42,203	+20,503
税引前利益	12,709	41,692	+28,982
純利益	6,362	31,727	+25,365

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

連結業績です。まず、売上高、投資損益、税引前利益、純利益はそれぞれ前年同期比 2 兆円以上の増額です。数字的には非常にいい期だと思います。

# 投資損益および純利益 (四半期)



純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

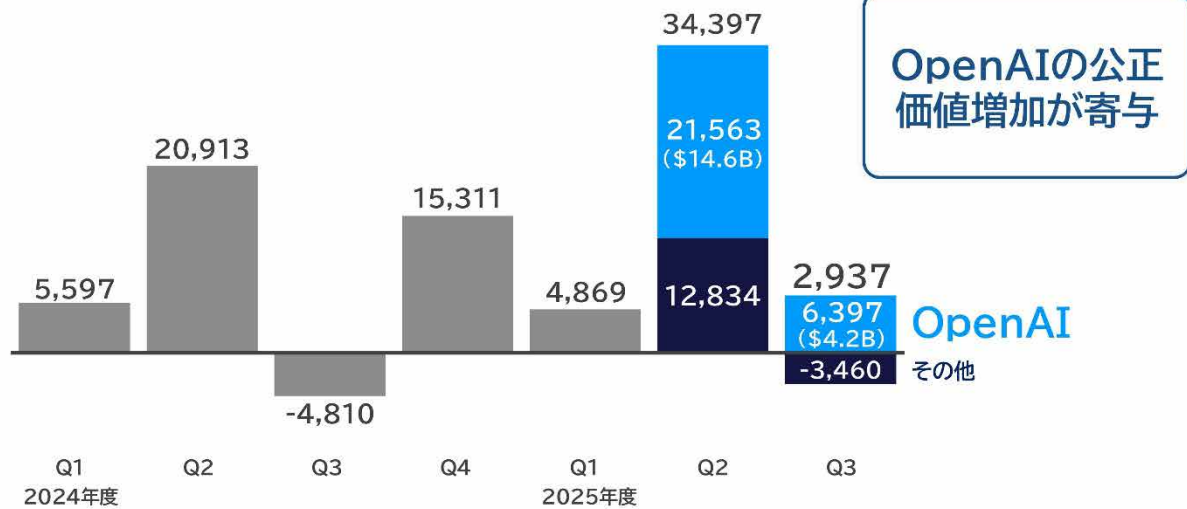
四半期別の投資損益です。第3四半期は3,000億円弱の投資利益です。これを見て、でこぼこだなという感想もあると思いますが、この7回の四半期を全部並べてみても6勝1敗、直近の4四半期は全部利益が出ている。投資会社としては非常にいい成長を遂げている証ではないかと思います。

累積すれば当然、黒字になっていくわけです。われわれのさまざまな投資戦略はこのような形で実を結びつつあると思います。

## 投資損益 (四半期)

SoftBank Group

(億円)

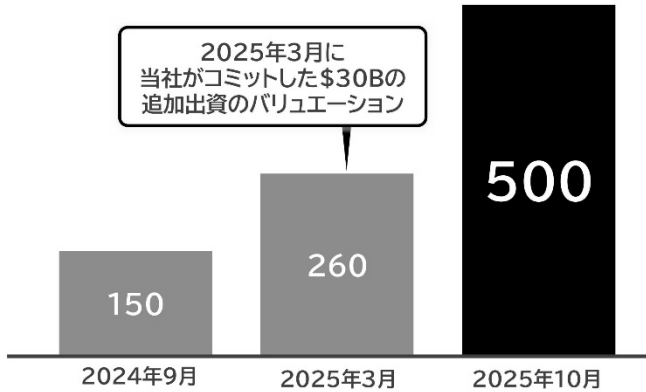


13

投資損益をさらに見ると、第2四半期と第3四半期に、OpenAIの公正価値増加は確かに大きく寄与しています。これはこれで、投資の意思決定が結果に対して非常に貢献していると思います。例えば、第2四半期を見ていただくと、ライトブルーのOpenAIの公正価値も非常に大きいですが、その下にある、その他投資でも1兆3,000億円近いプラスがあったわけです。

この第3四半期は、その他投資が3,000億円強のマイナスです。上場株の一時的な下落というのものがこうしたところで作用しているわけですが、トータルでちゃんと黒字を維持できているというところを私はしっかり評価したいと思います。

(\$ B)



未上場企業として  
世界最大級

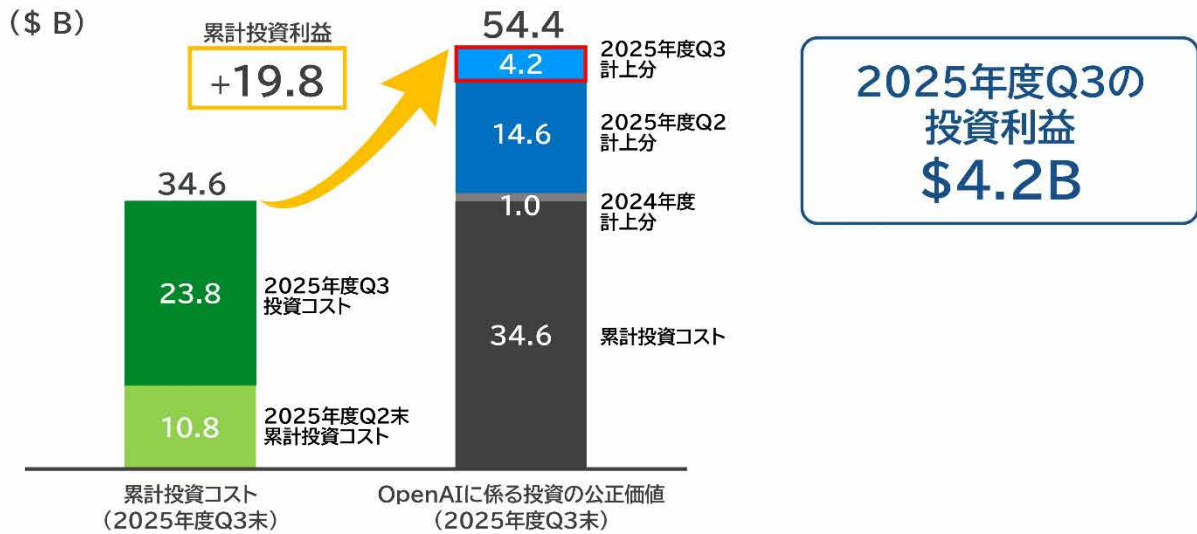
\$150B: 2024年9月のOpenAIによる資金調達ラウンドにおけるプレマネーベースのバリュエーション。詳細はOpenAIブログ(2024年10月2日付)を参照  
\$260B: プレマネーベースのバリュエーション。詳細は2025年4月1日付プレスリリース「OpenAIへの追加出資に関するお知らせ」を参照  
\$500B: 2025年10月に行われた従業員持分の売出しのバリュエーション

14

このように、われわれの投資結果に大きく貢献している OpenAI ですが、この 1 年強のバリュエーションの推移を見ていただくと、投資を始めた 2024 年 9 月は 1,500 億米ドルでした。そして、昨年 3 月に 300 億米ドルの大型投資をしようと思決定をしたときは 2,600 億米ドルです。昨年 10 月の段階では、この OpenAI のバリュエーションは 5,000 億米ドルに成長しました。これは私たちが 5,000 億米ドルだと言っているわけではなくて、OpenAI 株式を取得するラウンドの、第三者評価としてのバリュエーションが 5,000 億米ドルになったということです。

この成長は、まさに今 AI をリードしている OpenAI のさまざまなサービスが、急速に会社の価値を高めているということにほかならないだろうと思います。

# OpenAIへの出資に係る投資利益



累計投資コストは売却額をネットして表示

15

投資利益の積み上げを確認いただきます。左側の緑のところ、われわれの投資コストです。2025年度第2四半期末の累積投資コストである108億米ドルに加え、第3四半期に238億米ドルの投資を積み重ねました。

それが第3四半期累計の投資利益にどう影響しているかといいますと、まず約346億米ドルの累計投資コストが黒い部分で、その上に2024年に計上した利益と第2四半期に計上した利益に加え、この第3四半期に42億米ドルのさらなる追加の投資利益を上乗せでき、トータルで544億米ドルに至っています。累計の投資利益は198億米ドルのプラスです。

# 重要指標

	2025年3月末	2025年9月末	2025年12月末
NAV (時価純資産)	25.7兆円	33.3兆円	30.9兆円
LTV (純負債/保有株式価値)	18.0%	16.5%	20.6%
手元流動性	3.4兆円	4.2兆円	3.8兆円

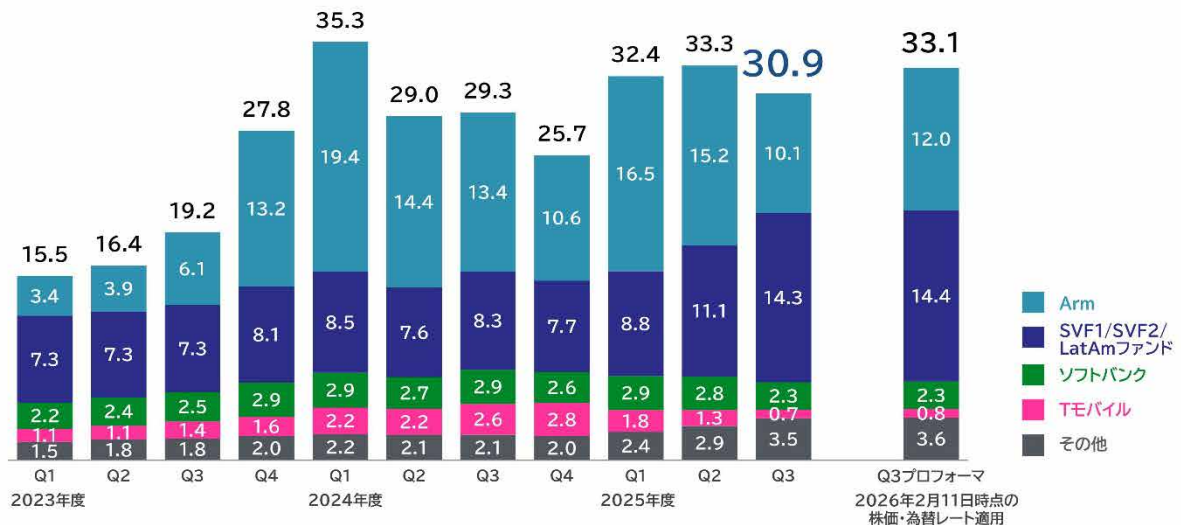
NAVおよびLTVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2025年3月末時点)」/「NAV・LTVの定義及び算出方法(2025年9月末時点)」/「NAV・LTVの定義及び算出方法(2025年12月末時点)」を参照  
 手元流動性=現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+債券投資+借入枠の未使用金額。2025年12月末の借入枠の未使用金額は9,452億円(コミットメントライン)。SBG単体ベース。SBG単体手元流動性に含まれる債券投資の一部を主な担保とした、SB Northstarによるプライムブローカーレレッジローン(PBローン)残高4,698億円を控除

重要指標についても少し説明したいと思います。まず、先ほども申し上げたNAV、時価純資産です。投資会社ですので、どうしてもこれが一番重要な指標だと思います。この12月末で約31兆円、今朝の数字ではほぼ33兆円です。

LTVは20.6%でしたが今朝時点では19%程度、手元流動性も3.8兆円レベルということで、われわれの財務は極めて健全な状態を維持できていると思いますし、皆さまにお約束している財務ポリシーの範囲内でしっかりと財務運営ができています。

# NAV

(兆円)



各四半期末時点の保有株式価値の割合で按分  
 NAVの詳細は、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV・LTVの定義及び算出方法」を参照  
 Q3プロフォーマは、2025年12月末時点の資産・負債構成に、2026年2月11日時点で入手可能な直近の株価・為替レートを適用して試算した参考値であり、将来の値を保証・示唆するものではない

ここ数年のNAVの歴史です。非常に安定した資産価値の状況をご覧いただけると思います。

# LTV

アセットバック・ファイナンス除く



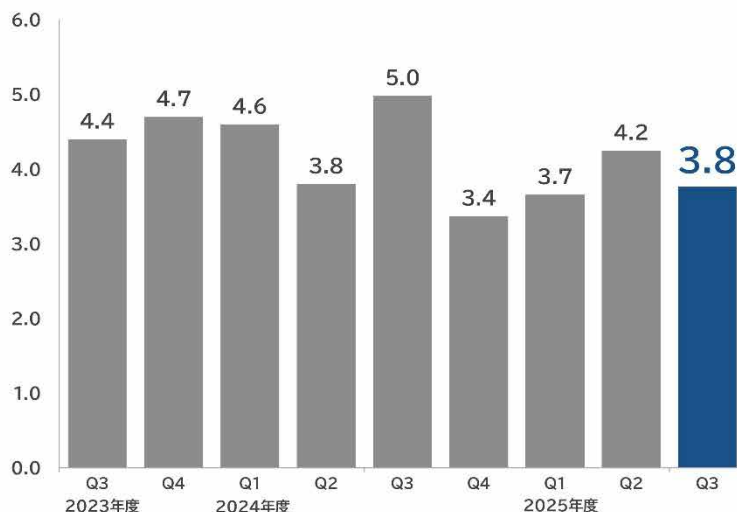
**財務方針を  
堅持しながら  
大型投資を実行**

各四半期末時点  
LTVの算出方法については、各四半期決算説明会プレゼンテーション資料に記載の「NAV・LTVの定義及び算出方法」を参照

LTV、資産に対する借入の指標で、担保掛目みたいなものです。現在は20%を切るレベルで、ほぼ4~5年間、安定して安全性を維持できていると思います。つまり、この9カ月でも巨大な投資を行ってきているわけですが、それも財務方針をちゃんと堅持しながらやっていますということも、皆さまに申し上げたいメッセージです。

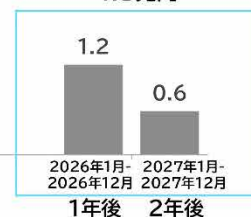
# 手元流動性

(兆円)



**大型投資実行も  
高水準を維持**

今後2年分の  
社債償還資金  
1.8兆円



各四半期末時点  
手元流動性: 現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+債券投資+借入枠の未使用金額。2025年12月末の借入枠の未使用金額は9,452億円(コミットメントライン)。SBG単体ベース。SBG単体手元流動性に含まれる債券投資の一部を主な担保とした、SB Northstarによるプライムブローカーローン(PBRローン)残高4,698億円を控除

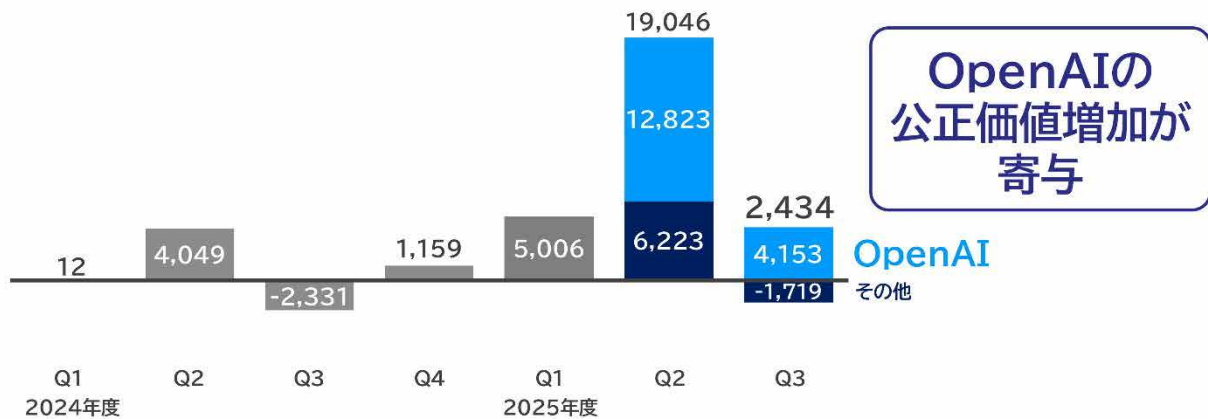
手元流動性は、常に今後2年間の社債償還資金を上回るキャッシュポジションを準備しておくというわれわれのポリシーもしっかりと守れていて、歴史を見ていただいても、ほぼ3兆円から4兆円のレベルを維持できているという財務状況です。

## SVFセグメント投資損益 (四半期)

SVFセグメント

SVF

(\$ M)



投資損益(四半期):セグメント情報における「SVF事業の投資損益」の四半期計上額。デリバティブ関連損益を含む。外部投資家持分および税金等控除前。連結財務諸表の作成における為替換算前

22

さて、ソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）について少しお話を申し上げたいと思います。

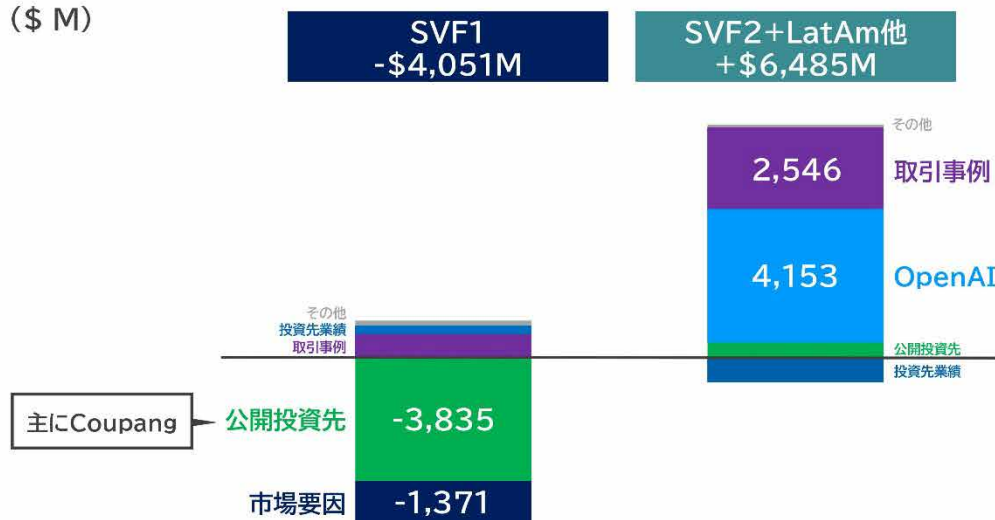
SVFの投資損益の推移を見ていただきますと、数字は異なりますが、四半期ごとのパフォーマンスの変化は、ソフトバンクグループ全体の投資損益とおおむね同じような動きをしています。中身の分析もそのとおりです。

# 投資損益の内訳 (2025年度Q3)

SVFセグメント

SVF

(\$ M)



投資損益(四半期):セグメント情報における「SVF事業の投資損益」の四半期計上額。デリバティブ関連損益を含む。外部投資家持分および税金等控除前。連結財務諸表の作成における為替換算前各投資先の2025年度Q3における価値変動の主要因について、SBGAおよびSBIAが合理的と考え決定した区分に基づき分類し表示。市場要因:類似企業株価比較、資本コストの変動などによる価値変動を含む。公開投資先:店頭市場で取引されている投資先を含む。SBGおよびSVF2が完全に所有、または支配している事業体を通じて間接的に保有している暗号資産トークンおよび上場証券への持分は含まない。その他:エクジットした投資(2025年度Q3にエクジットした投資の売却額から投資額を差し引いた金額)、「投資先からの利息および配当金」、為替影響などを含む。

23

投資損益の内訳をもう少し細かく見てみますと、今四半期はSVF1のところではマイナスが出ています。公開投資先の損益が約38億3,500万米ドルのマイナスになっていますが、主に情報漏洩等の問題が生じたCoupangの評価減が大きい。

Coupangの今後については、ファンダメンタルズはしっかりしていますし、ビジネスも好調だと思いますので、私たちは今後の株価の回復とさらなる成長を期待したいと思っています。

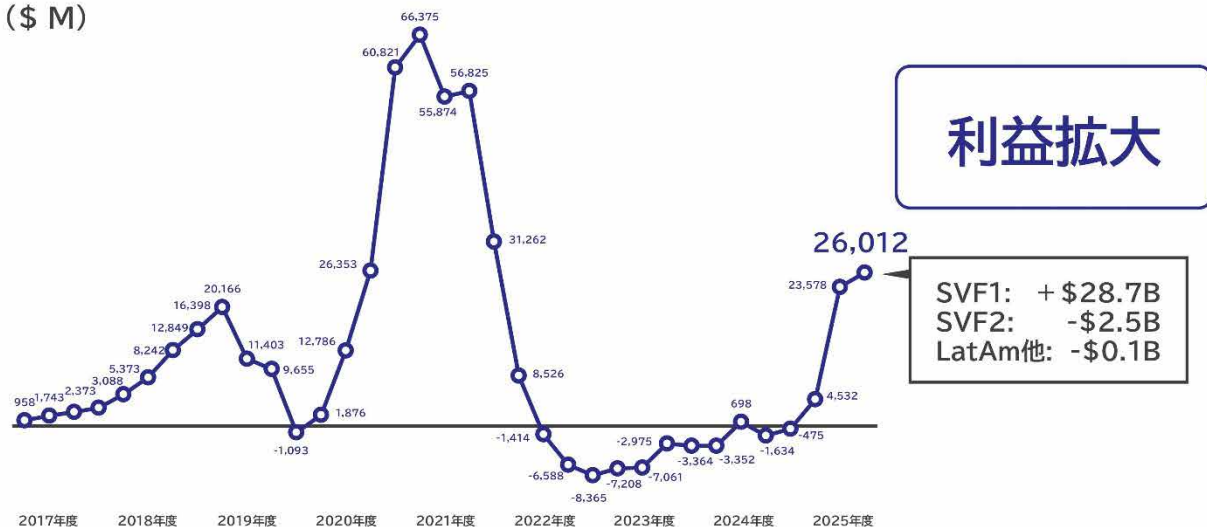
また、右側のSVF2は、その他のところで大きくプラスになっていますが、これはOpenAIの貢献も大きいですし、その他のこの3~4年で投資してきたポートフォリオもその評価を高めてきているところです。SVF2の評価が、ようやく四半期ごとに成長してきていると思います。

# 投資損益 (活動開始来累計)

SVFセグメント

SVF

(\$ M)



投資損益(活動開始来累計):セグメント情報における「SVF事業の投資損益」の2017年度Q1からの累計計上額。デリバティブ関連損益を含む。外部投資家持分および税金等控除前。連結財務諸表の作成における為替換算前

24

活動開始来累計投資損益について、トータルでプラスを維持できています。先ほど、最近の四半期ごとの投資損益が6勝1敗と申し上げましたが、それを累積で見ても、累積利益は拡大しています。2022年ぐらいから苦しい時期がありましたが、トータルとしてしっかりとパフォーマンスを回復できている。今後も楽しいレイトステージ投資先がいくつもあります。こうしたものはさらに、この累積利益を成長させてくれるだろうと考えています。

# 株式公開実績と今後のパイプライン

SVF

将来の株式公開に向けた強固なパイプラインを確保

<p><b>株式公開実績</b></p> <p>2025年度Q3新規IPO</p> <p><b>lenskart</b> (2025年11月)</p> <p><b>meesho</b> (2025年12月)</p> <p>活動開始来累計</p> <p><b>60件</b></p>	<p><b>レイトステージ投資先</b></p> <p>公正価値合計 <b>\$90B</b> (2025年12月末) (2025年9月末比 +\$34B)</p> <p>IPOファイリング済</p> <p><b>PayPay</b> <b>klook</b> <b>ETHOS</b> <b>XAG</b> (2026年1月29日上場) <b>EIGENCOMM</b> More than connection</p> <p>主な投資先</p> <p><b>OpenAI</b> <b>ByteDance</b> <b>Fanatics</b> <b>Revolut</b> <b>OYO</b> <b>yanolja</b></p>
--	---

(出所) SBGAおよびSBIA  
 株式公開実績(活動開始来累計):IPO件数およびSPACとの合併(De-SPAC)による株式公開件数。株式公開日に投資した投資先および投資後に全部エクジットまたは上場廃止した投資先を含む。  
 WeWorkおよびFull Truck Allancelaは、いずれもSVF1およびSVF2からの投資。OpenAIは、豊富な資金調達実績と直近の評価額に基づき、「レイトステージ」の投資先として分類。  
 レイトステージ投資先の公正価値:2025年12月末時点でシリーズE以降または同等のレイトステージファンドにおいて資金調達を実施した、またはSBGAおよびSBIAの分析に基づき近い将来に上場する可能性があると考えられる未公開投資先の公正価値を含む。  
 本スライドに記載の投資は、SVF1、SVF2およびLatAmファンドが実施した投資のうち、シリーズEまたはそれに相当するレイトステージラウンドにおいて資金調達を実施した、または株式公開した投資先を例示するために選択されたものであり、SVF1、SVF2およびLatAmファンドの投資先を網羅するものではない。  
 本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資先は証券の推奨として解釈されるべきものではなく、将来行われる投資が、本スライドに記載の投資と買またはパフォーマンスにおいて同等であると想定されるべきではない。SVF1およびSVF2の投資先一覧は<https://visionfund.com/portfolio>に、LatAmファンドの投資先一覧は<https://www.latinamericafund.com/portfolio>に掲載。レイトステージ投資先が将来的にも株式公開する、あるいはいつでも株式公開が可能であることを保証するものではない。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない。

25

左にあります、活動開始来の IPO 実績は累計で 60 件に達しました。第 3 四半期も Lenskart と Meesho の 2 社が新規 IPO を達成しました。

また、その右側にあるのが、さらに今後われわれが楽しみにしているレイトステージ投資先です。昨年 12 月末の公正価値合計として、900 億米ドルに上る評価と考えています。

その数字を構成するポートフォリオが下にありますが、すでに IPO ファイリングを済ませている銘柄には、日本の PayPay もあります。それ以外にも Klook などファイリング済みです。

そして、右側のその他レイトステージ投資先も、おそらく今後比較的短い時間軸で IPO など投資回収に向かう銘柄になります。OpenAI や ByteDance はもちろん、Fanatics、Revolut、OYO、Yanolja などそれぞれ大きな価値を提供してくれるポートフォリオばかりです。われわれはこうした投資先のさらなる成長もモニタリングし、成長のサポートもしながら、ファンドとしての投資パフォーマンスを上げていきたいと考えています。

## 2025年度Q3のIPO銘柄

SVF



SVF2

インドおよび海外市場において、アイウェアの設計から販売までを自社で一貫して行うオムニチャネル企業



(出所) Lenskart  
購入顧客数、店舗数、アイウェア販売数は2024年4月1日から2025年3月31日の実績  
リターン：取崩前に2025年12月31日時点の累計損益(グロス)を加えた金額。グロスMOIC：2025年12月31日時点における取得価値合計に対するリターン(倍率)。エグジット時に投資家に課される税金およびファンド関連費用控除前。投資先について予想される実際のパフォーマンスや将来のパフォーマンスを示すものと解釈されるべきではない。個別の投資のパフォーマンス(純額)については、算出に当たり手数料および経費の配分について恣意的な仮定を置く必要があることから、本スライド記載の情報には含まない。  
本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨として解釈されるべきではない。本スライドに記載の投資は、SVF2が実施した投資のうち、IPOを行った投資先を例示するために選択されたものであり、SVF2の投資先を網羅するものではない。SVF2の投資先一覧は<https://visionfund.com/portfolio/>に掲載。  
本スライドに記載の投資全体のパフォーマンス(純額)については、算出に当たり手数料および経費の配分について恣意的な仮定を置く必要があることから、本スライド記載の情報には含まない。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない

直近 IPO した 2 銘柄を簡単に紹介したいのですが、まず Lenskart です。眼鏡などアイウェアの設計から販売までを一気通貫で行う企業ですが、パフォーマンスは好調です。グロス MOIC も 4.8 倍で、株価も上場後堅調に推移しています。

# 2025年度Q3のIPO銘柄

SVF

## meesho

SVF2

個人・小規模事業者向けにEコマースプラットフォームを提供し、消費者との直接取引を可能にするインド企業



(出所) Meesho  
取引ユーザー数、取引販売者数、流通取引総額は2024年4月1日から2025年3月31日の実績  
リターン:取得原価に2025年12月31日時点の累計損益(グロス)を加えた金額。グロスMOIC:2025年12月31日時点における取得価額合計に対するリターンの倍率。エグジット時に投資家に課される税金およびファンド関連費用控除前。投資先について予想される実際のパフォーマンスや将来のパフォーマンスを示すものと解釈されるべきではない。個別の投資のパフォーマンス(純額)については、算出に当たり手数料および経費の配分について恣意的な仮定を置く必要があることから、本スライド記載の情報は含まれない  
本スライドに記載の投資への言及は、特定の投資または証券の推奨として解釈されるべきものではない。本スライドに記載の投資は、SVF2が実施した投資のうち、IPOを行った投資先を例示するために選択されたものであり、SVF2の投資先を網羅するものではない。SVF2の投資先一覧は<https://visionfund.com/portfolio/>に掲載  
本スライドに記載の投資全体のパフォーマンス(純額)については、算出に当たり手数料および経費の配分について恣意的な仮定を置く必要があることから、本スライド記載の情報は含まれない。過去の業績が将来も継続することを保証するものではない 27

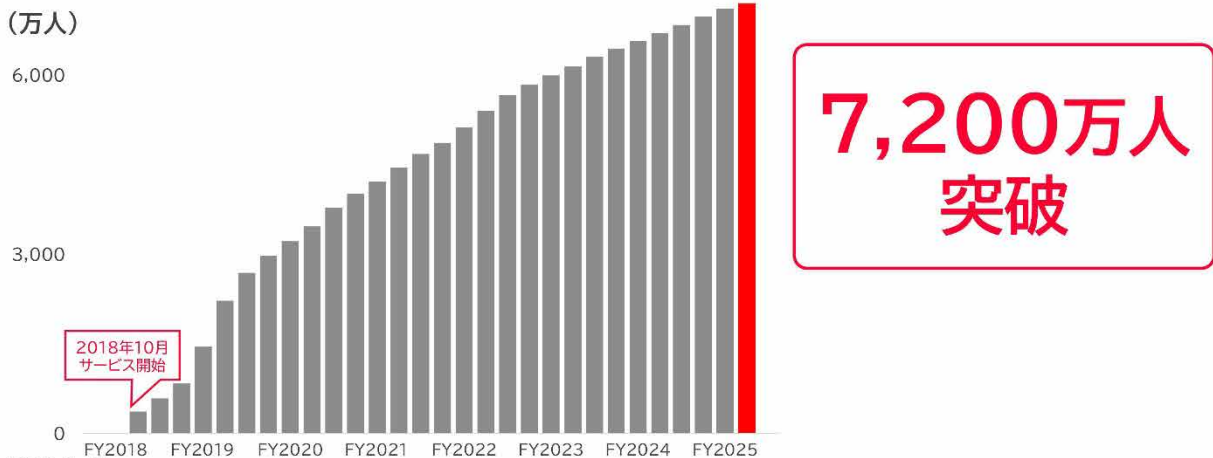
もう一つは Meesho で、個人や小規模事業者向けに E コマースのプラットフォームを提供して、消費者と直接取引を可能にするための仲立ちをするような企業です。こういう会社は日本にもありますが、インドの企業です。

こちらも株価の上げ下げがあるものの、トータルでは好調に推移をしていますし、投資リターンも好調です。この2銘柄はたまたまインド銘柄ですが、この四半期に実現した IPO です。

# PayPay登録ユーザー数

PayPay

日本の人口の2人に1人以上  
日本のスマホユーザーの約3人に2人が利用



(出所) PayPay(株)  
7,219万人:万人未満を切り捨てて開示  
日本の人口の約2人に1人以上:総務省統計局「人口推計-2026年(令和8年)1月報-」を基に、PayPay(株)にて算出  
日本のスマホユーザーの約3人に2人が利用:総務省統計局「人口推計-2026年(令和8年)1月報-」および総務省「令和6年通信利用動向調査」の「1.情報通信機器の保有状況」を基に、PayPay(株)にて算出

29

PayPay について、少しお話ししたいと思います。

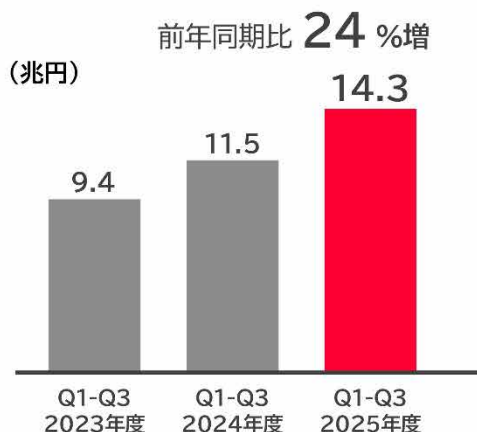
ビジネスは非常に堅調というか、快調に進んでいます。登録ユーザー数が7,200万人を突破し、すでに日本の人口の2人に1人はPayPayを使っている。また、日本のスマホユーザーの3人に2人はPayPayを利用しているという、まさにこれも日本における決済系プラットフォームとしての役割を今後大いに期待できるポートフォリオだと思います。

## 主要連結経営指標



### 決済取扱高 (GMV)

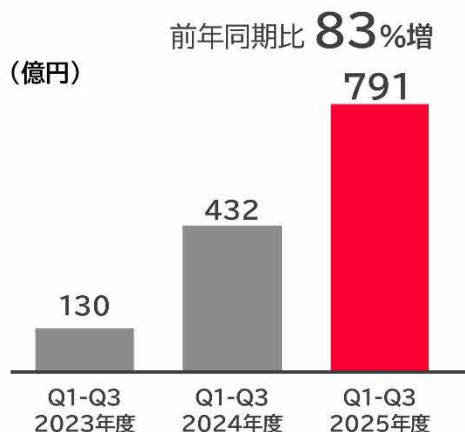
PayPay PayPayカード PayPay銀行



(出所) PayPay(株)  
「PayPay残高」、「PayPayデビット」、「PayPay残高カード」、「PayPayクレジット」、「PayPayカード(物理カード)」、「VISAデビットカード」、「Alipay」、「LINE Pay」等経由の決済を含む。ユーザー間での「PayPay残高」の送る・受け取る機能の利便、「VISAデビットカード」のキャッシュカード機能利用時のATM引き出し金額は含まない。PayPay(株)、PayPayカード(株)、PayPay銀行(株)の決済取扱高を合算し、内部取引を消去。2025年度Q1にPayPay(株)がPayPay銀行(株)を子会社化したことに伴い、2023年度以降の数値を適及修正

### EBITDA

PayPay PayPayカード PayPay銀行 PayPay証券



(出所) PayPay(株)  
貸方準備法の適用により、PayPay銀行(株)およびPayPay証券(株)の財務諸表を2022年度から、PayPayカード(株)の財務諸表を2021年度からPayPay(株)に連結。EBITDAは営業利益に減価償却費、減損損失および固定資産除却損等の非経常費用を足して算出、IFRS。非監査数値

30

その他の指標も順調です。左側はGMVと言われる決済取扱高です。9カ月の実績が約14兆円です。現時点での前年同期比はGMVが24%増、右側のEBITDAに関しては83%の増加ということで、財務面の成長も目覚ましいものがあります。

バリュエーションは、近いうちにIPOで皆さまのご期待にお応えできるのではないかと思います。

## 売上高 (四半期)(米国会計基準)

arm

(\$ M)

- ライセンスおよびその他の収入
- ロイヤルティー収入



過去最高  
前年同期比26%増

(出所) Arm  
ライセンスおよびその他の収入: ロイヤルティー収入以外の収入  
詳細はArm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

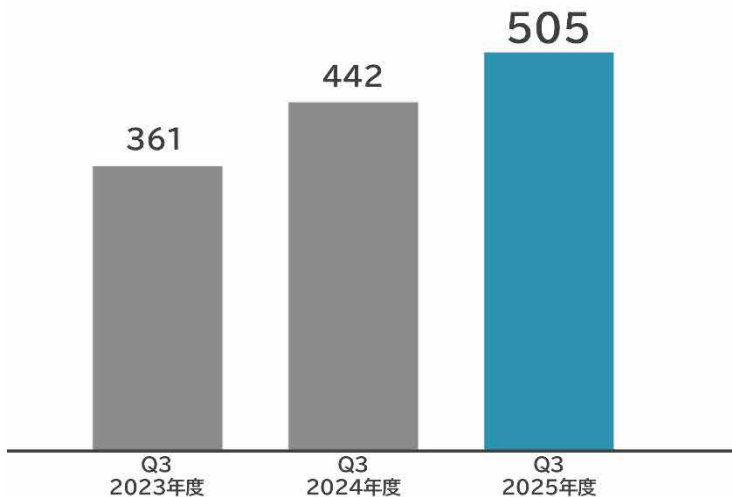
32

次に Arm です。非常に順調で、売上高は前年同期比 26%の増加で、過去最高です。ライセンスその他の収入、それから、ロイヤルティーの収入、ともに順調に成長しています。

## 調整後営業利益 (四半期)(米国会計基準)

arm

(\$ M)



前年同期比  
14%増

(出所) Arm  
調整後営業利益: Non-GAAP Operating Income. GAAP基準数値とNon-GAAP数値間の差異については、Armの「FYE26-Q3 Shareholder Letter」を参照  
詳細はArm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

33

調整後営業利益も、前年、前々年同期比で見てください、順調に成長しています。前年同期比で14%の増加実績です。Armには研究開発投資も必要ですが、そうしたコストを十分かけながら、それでも、この利益を達成できているというところに、この数字の意味があるのだらうと思います。



(出所) Armおよび各社ウェブサイト

34

Armの技術は、現在もさまざまな分野で活躍してくれています。少し例を紹介すると、エッジAI、フィジカルAI、クラウドAIの3つの分野です。

まず、一番左はスマートフォンやIoT機器などを含むエッジAIの分野です。韓国のSamsungがExynos 2600を発表しています。これはArmのv9やCSSを基盤とするモバイル向けのチップです。

また、フィジカルAIの分野では、米国のEVメーカーであるRivianの自動運転向けのチップがArmのv9ベースです。また、一番右のデータセンターを含むクラウドAIの分野としては、AWSがArmv9ベースのGraviton5を発表しています。

このようにArmv9をどんどん世に展開していきます。従来のArmv8と比較しても、ロイヤルティ単価は2倍になる。また、CSSベースは、Armv9よりさらに高いロイヤルティを生み出すこととなります。これらの製品をどんどん発売していくことで、Armのロイヤルティ収入はさらに押し上げる要因になるということです。今後も大いに期待したいと思っています。

## 堅調な成長見通し

2025年度 Q4

売上高 **\$1.470B** ±\$50Mのレンジ  
前年同期比 +18%

調整後営業費用 **\$745M程度**

調整後EPS (完全希薄化後) **\$0.58** ±\$0.04のレンジ

(出所) Arm  
調整後営業費用は「Non-GAAP operating expense」、調整後EPS(完全希薄化後)は「Non-GAAP fully diluted earnings per share」を示す。  
詳細は、Arm Investor Relations (<https://investors.arm.com/>)を参照

35

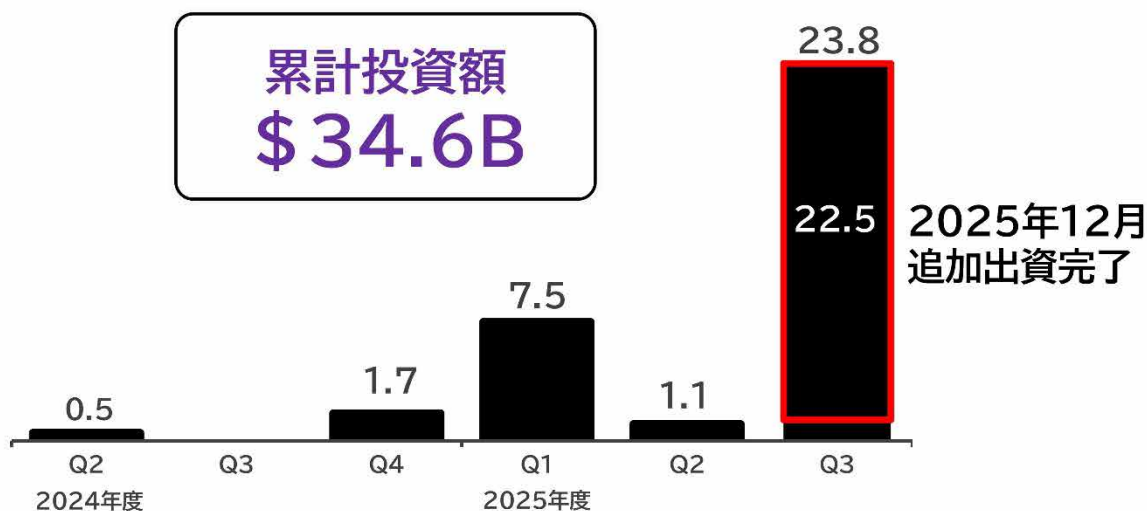
Arm は業績のガイダンスも発表しています。実に堅調な成長見通しを発表できていて、アナリストコンセンサスも上回った数字になっているのではないかと思います。

売上高は 14.7 億米ドルで、前年同期比 18%の成長を出しています。少しプラスマイナスのレンジがあり、14.7 億米ドルは中値です。その他、調整後営業費用も 7.45 億米ドル程度、調整後 EPS も 0.58 米ドルと、この数字もきっとまたしっかり達成してくれるものと信じています。

## 投資額推移

OpenAI

(\$ B)



売却額をネットした投資額を表示

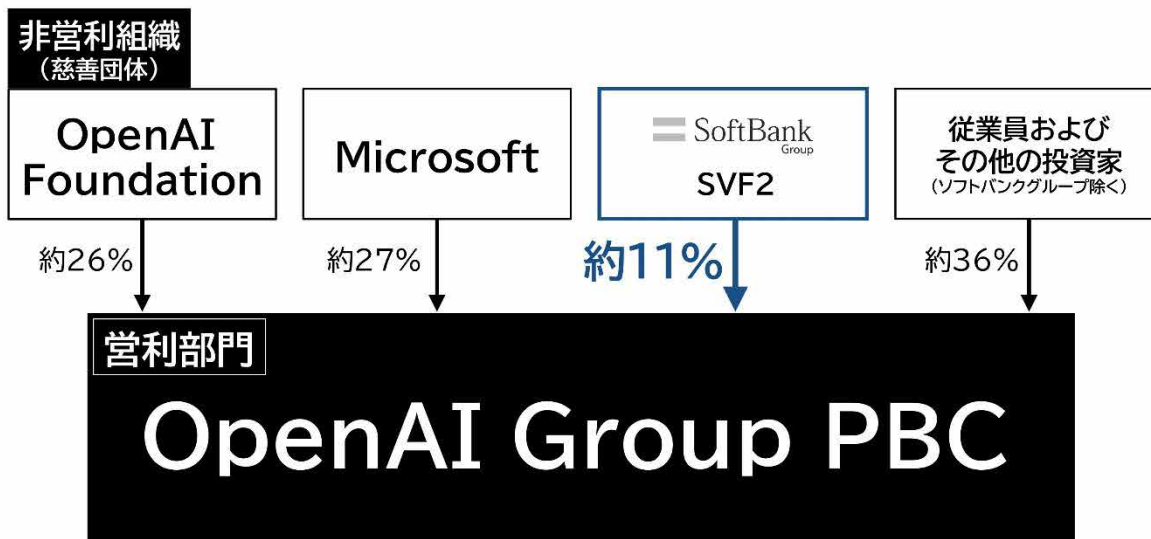
37

OpenAI について、もう少し皆さまに説明しておきたいと思います。

まず、OpenAI に対する私たちの SVF2 を通じた投資額の推移は、累計で 346 億米ドル、5 兆円強になります。このうち、第 3 四半期には 225 億米ドルの追加出資の払い込みを完了しています。

## 持分比率

OpenAI



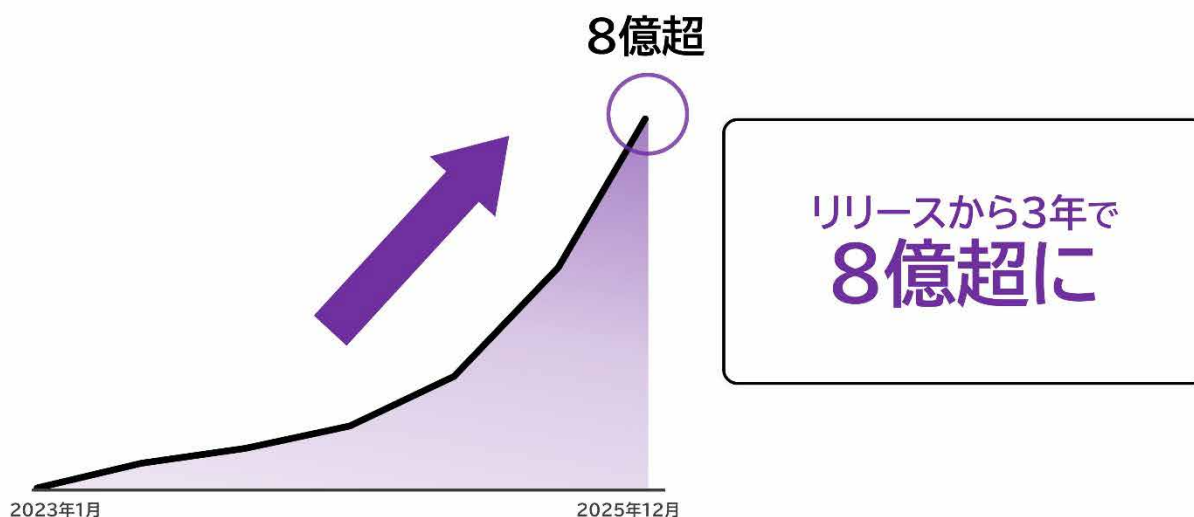
(出所) OpenAI ブログ (2025年10月28日付)  
各社の OpenAI Group PBC の持分: 2025年12月のセカンドクローリング実施後ベース

38

その結果、OpenAI の営利部門、OpenAI Group PBC の株主持分比率として、われわれは約 11% の株主ということになります。ほかの大株主には、非営利組織の OpenAI Foundation や Microsoft が当初から存在していて、その次に当たる約 11% の株主ということです。

## 週間アクティブユーザー数 (グローバル)

OpenAI



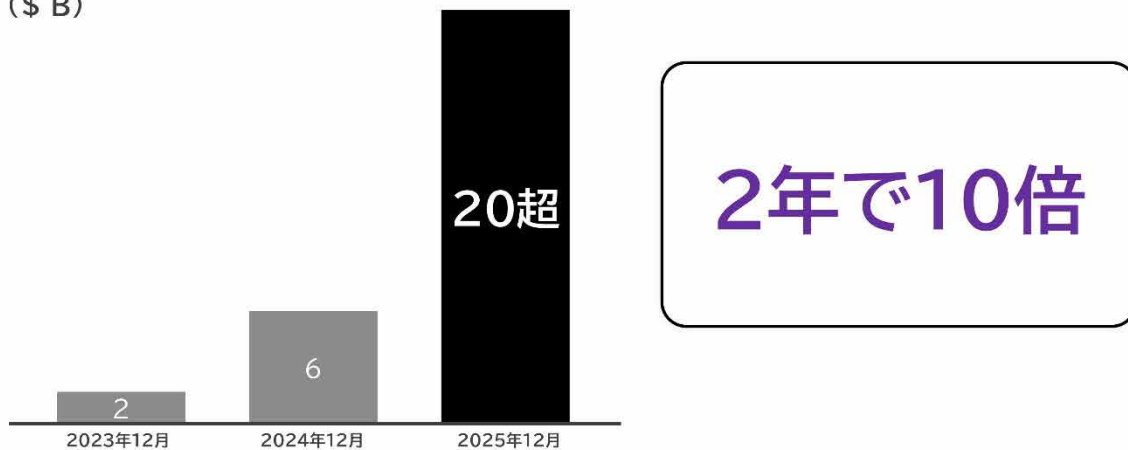
(出所) OpenAI 会社発表

39

彼らのサービスは相変わらず順調です。リリースからまだ3年ですが、週間アクティブユーザー数は8億人超となり、さらに成長を続けている状況です。

## 年間経常収益 (ARR: Annual Recurring Revenue) OpenAI

(\$ B)

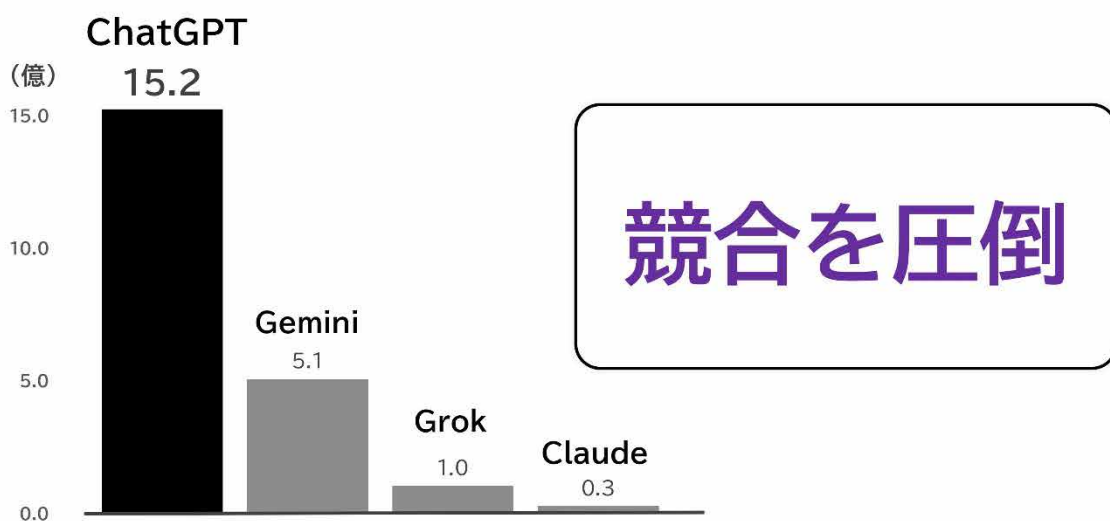


(出所) OpenAIブログ(2026年1月18日付)  
ARR:対象月に計上された契約ベースの継続収益を12倍して算出した年換算額。コンシューマー向けサブスクリプション、エンタープライズ向けサブスクリプション、API提供、その他のサービスからの収益を含む

40

年間の経常収益、Annual Recurring Revenue も、2025年12月時点で200億米ドルを超えるところまで来ています。2年間で10倍になっているのです。それくらいの収益の成長率を見ていただけるということです。

## アプリダウンロード数 (グローバル、サービス開始来累計) OpenAI



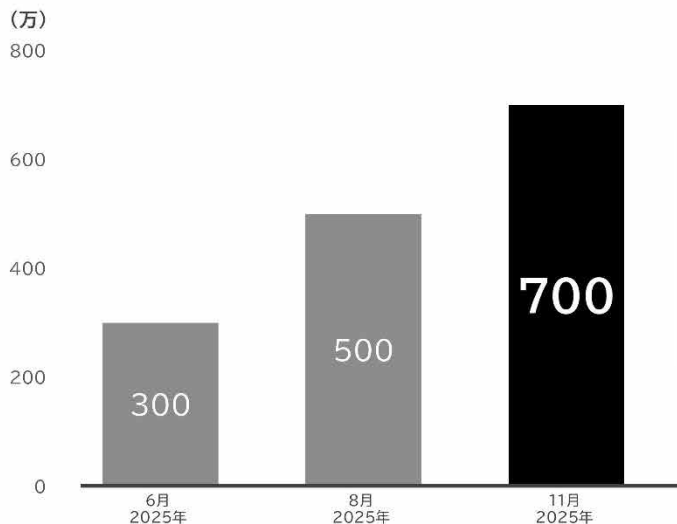
(出所) SensorTower。各社のアプリサービス開始から2025年12月までの期間における、グローバルでのAndroidおよびiPhoneの累計アプリダウンロード数。ChatGPTは2023年5月より、Geminiは2024年2月より、Claudeは2024年5月より、Grokは2024年12月より

41

また、OpenAI の主力サービスの ChatGPT のアプリのダウンロード数は、グローバルに見て、サービス開始以来の累計で 15 億強です。Gemini やその他の競合サービスを大きく圧倒しているこの数字も、競合に対する ChatGPT の強さとして見ていただけたらと思います。

## ChatGPT for Workアカウント総数

OpenAI



法人向け  
ビジネスも拡大

(出所) OpenAIブログ(2025年11月5日付)  
ChatGPT for Workは法人向けプランの総称(ChatGPT Business, ChatGPT Enterprise, ChatGPT Eduを含む)

42

また、法人向けのサービス ChatGPT for Work のアカウント総数も 700 万を超えているということで、法人向けのビジネスも拡大しています。これも今後の ChatGPT 事業の拡大のために欠かせない分野だと思えます。

## 次々に新製品を発表

OpenAI

今後の成長を支える新製品を順次リリース

<p><b>ChatGPT for Healthcare</b> (2026年1月)</p> <p>個人の健康データや医療情報を安全に活用し、健康管理・受診準備・医療情報の理解を支援し、患者および医療従事者の意思決定をサポート。260人以上の医師と協力して開発</p>	<p><b>Prism</b> (2026年1月)</p> <p>GPT-5.2を基盤とした、論文執筆と共同作業に特化したワークスペース。論文の共同執筆・編集・査読に加え、参考文献の検索、図表生成、構成整理も支援</p>	<p><b>GPT-5.3 -Codex</b> (2026年2月)</p> <p>実務的なソフトウェア開発を前提に、設計・コーディング・テスト・デバッグ・セキュリティ修正までを一気通貫で支援する、エンジニアリング作業に最適化された自律型コーディングモデル</p>	<p><b>Frontier</b> (2026年2月)</p> <p>AIエージェントの設計・配備・運用・性能改善までを一元的に管理可能とする法人向けAIプラットフォーム。「クリスタル・インテリジェンス」の基盤として、SB OAI Japanが日本企業に展開予定</p>
--	--	--	--

(出所) OpenAIブログ

43

OpenAI もさまざまな分野に次々と新製品をリリースしています。例えば Chat GPT for Healthcare は医療の領域です。また、Prism は論文執筆など研究支援です。そして、GPT-5.3-Codex はソフトウェア開発のコーディング分野です。さまざまな専門領域へ特化した製品を次々と世に出してきています。

そして、一番右の Frontier は AI エージェントの導入を支援する法人向けの AI プラットフォームです。今、私たちが OpenAI と組んで本格的なサービス展開の準備を進めているクリスタル・インテリジェンスの基盤となります。クリスタル・インテリジェンスは SB OAI Japan 株式会社を通じ、日本企業向けの展開を予定しています。これらの新製品の投入により、成長が加速していくものと大いに期待しています。

## ChatGPTにおける広告を開始

OpenAI

米国の低価格サブスクリプション・プランを対象に試験的に広告を配信

広告例: 夕食の献立を質問すると



Harvest Groceries  
Sponsored

These options may help if you're stocking up on ingredients.

Ember Co. Hot Sauce  
In stock • \$5.99  
25-35 minutes

必要な食材候補を提示

(出所) OpenAIブログ(2026年1月16日および2026年2月9日付)

44

この他、ChatGPT の広告分野もスタートしています。左の画面はスマートフォンの画面で、ChatGPT に「メキシコ料理のいいメニューはないか」と聞いています。すると、ChatGPT がすぐに「こんなのあるよ」と、ビーフを使ったちょっとスパイシーな料理と、チキンの料理を紹介してくれているのです。

そうすると、ChatGPT の画面の下に、「こんなホットソースはいかがですか」という広告がすぐに出てくるようになる。「ああ、そうか、ちょっと辛めの料理を作ろうと思ったら、この広告の商品ええな」ということになるかもしれません。例えばこんな形で展開していくわけです。

ほかにも皆さまが ChatGPT に何かを聞いたときに、ChatGPT が答えてくれると同時に、その下に、もし良かったらこんなどう、という広告が出てくるということで、おそらく E コマースの分野でもこの広告モデルのサービスは非常に魅力的なサービスとして大きく成長する可能性もありそうだなと楽しみに考えています。

今週米国で、無料プランや低価格のサブスクリプションプランなどの利用者を対象に、この広告配信を試験的に開始したところです。

## 戦略的パートナーシップ締結



### Stargate推進に向け OpenAI、SBG、SB Energyが 戦略的パートナーシップを締結 (2026年1月9日)

**OpenAI**

\$500M新規出資

**SoftBank  
Group**

\$500M追加出資

**SB Energy**

SBG子会社

詳細は2026年1月9日付SB Energyプレスリリース「OpenAI and SoftBank Group Partner with SB Energy」を参照。  
Stargateの詳細は、2025年1月22日付「Stargate Projectについて」および  
2025年9月24日付「OpenAI、Oracle、ソフトバンクグループ、Stargateを推進—新たに5つのAIデータセンター拠点を設立」の各プレスリリースを参照

46

Stargate について、進捗をお話ししたいと思います。

まず、OpenAI と SBG、そしてソフトバンクグループの SB Energy が戦略的パートナーシップを 1 月 9 日に締結しました。OpenAI と SBG がそれぞれ 5 億米ドルの出資を SB Energy に行い、SB Energy が Stargate の推進をこれからさらに加速していくというモデルを考えています。

## テキサス州ミラム郡データセンター (1.2GW規模)



### SB Energyが建設事業者に選定 OpenAIと15年間のリース契約締結



詳細は2026年1月9日付SB Energyプレスリリース「OpenAI and SoftBank Group Partner with SB Energy」を参照。  
Stargateの詳細は、2025年1月22日付「Stargate Projectについて」および  
2025年9月24日付「OpenAI、Oracle、ソフトバンクグループ、Stargateを推進—新たに5つのAIデータセンター拠点を設立」の各プレスリリースを参照

47

テキサス州のミラム郡のデータセンターです。非常に大きなデータセンターとして、従前より準備をしてきました。1.2 ギガワット相当のデータセンターですが、SB Energy が建設事業者に選定され、OpenAI と 15 年間のリース契約を締結しています。

これは現地の写真です。ご覧のとおり、造成、シビルワークがどんどん進んでいて、まず整地が済み次第、その上に建物、そしてさまざまなチップ・アンド・システムの搭載準備に入るところです。

## 買収を発表 (2025年12月29日)

DIGITALBRIDGE

### 全発行済普通株式を\$3.1Bで取得する契約を締結 2026年後半の買収完了を見込む

DIGITALBRIDGE

デジタルインフラ投資に特化した  
世界有数の資産運用会社

運用資産残高

\$108B

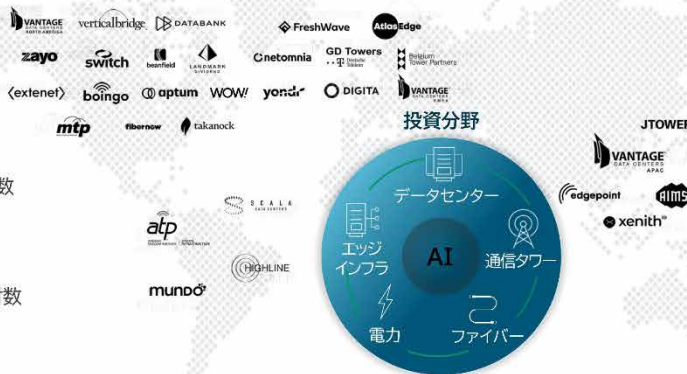
ポートフォリオ企業数

45社以上

デジタル・インフラ分野のプロフェッショナル人材数

100人以上

グローバルな投資先



運用資産残高: 2025年9月30日現在。DigitalBridgeが自己のバランスシートから投資している、またはDigitalBridgeの子会社が投資助言サービスを提供している投資先企業を含む。同社および関連企業が運用する総資本額(第三者資本および自己資本を含む)であり、投下資本およびコミット済資本に基づく。ファンドの運用文書や規制上の定義には基づかない。  
ポートフォリオ企業数およびデジタル・インフラ分野のプロフェッショナル人材数: 2025年9月30日現在

49

次に、DigitalBridge への投資について少し説明申し上げたいと思います。

年末の12月29日に買収を発表しました。DigitalBridge の全発行済普通株式を31億米ドルで取得するという契約で、まだ完了までは少し時間がかかります。おそらく2026年後半になると思いますが、買収を完了をする予定です。

DigitalBridge は LP 出資を通じて、多くのデジタルインフラ分野に特化して投資を行っています。運用資産残高 (Asset Under Management) は1,080億米ドル、円換算すると約17兆円に上ります。

投資ポートフォリオは45社に上ります。また、このデジタルインフラ分野における投資のプロフェッショナル人材が100人以上いるということで、この会社をわれわれのグループに迎え入れることには、非常に大きな期待があります。

# 主要ポートフォリオ企業

<p>データセンター</p>	<p> <b>VANTAGE</b> DATA CENTERS 世界各地でハイバースケール向けキャンパス型データセンターを建設・運営するデータセンター事業者</p>	<p> <b>switch</b> 米国全土でAI対応の大規模キャンパス型データセンターを開発するデータセンター事業者</p>	<p> <b>DATABANK</b> 北米で60超のデータセンターと20超の接続拠点を運営するエッジ・企業向けデータセンター事業者</p>
<p>通信タワー</p>	<p> <b>GD Towers</b> ドイツ・オーストリアで約4万の通信タワーを運営する欧州最大級の通信タワー事業者</p>	<p> <b>verticalbridge</b> 1万7,000基超の通信タワーを保有・運営する米国最大の非上場通信タワー事業者</p>	<p><b>JTOWER</b> 日本全国で、シェアリング型通信タワーや屋内通信ソリューションを保有・運営する大手通信インフラ事業者</p>
<p>ファイバーネットワーク</p>	<p> <b>zayo</b> 米国・西欧で、長距離および都市内の光ファイバーネットワークを保有・運営する世界有数の事業者</p>	<p> <b>netomna</b> 英国全土で大規模な光ファイバーネットワークを展開するFTTH事業者</p>	<p> <b>WOW!</b> 米国の19市場で、高速インターネット、映像音声、モバイル、クラウドサービスを提供するブロードバンド事業者</p>
<p>エッジインフラ</p>	<p> <b>AtlasEdge</b> 欧州全域で100超のエッジデータセンター施設を運営するインフラ事業者</p>	<p> <b>boingo</b> 空港・軍事基地・スタジアム等の大型施設で屋内無線ソリューションを展開する通信インフラ事業者</p>	<p> <b>FreshWave</b> 英国で屋内外のネットワークを幅広く展開するスモールセル通信インフラ事業者</p>

(出所) DigitalBridgeウェブサイト  
掲載企業はDigitalBridgeの全ポートフォリオを示すものではなく、代表例として掲載

50

ポートフォリオ企業の一部を紹介しますと、ここにあるような銘柄です。例えば大きなものだと、VANTAGEなどは日本でもサービス展開している、AIデータセンターなどを展開する会社です。また、Switchも米国全土でAI対応の大規模なデータセンターを開発するEPC事業者\*として、非常に有名な企業です。

\* 設計 (Engineering)、調達 (Procurement)、建設 (Construction) を一括して請け負う事業者のこと。

通信タワーのところでは、日本のJTOWERも、DigitalBridgeが保有しています。

## 財務方針

# 財務方針に変更なし

通常時 **LTV25%未満** で運用 (異常時でも上限35%)

少なくとも **2年分の社債償還資金** を保持

52

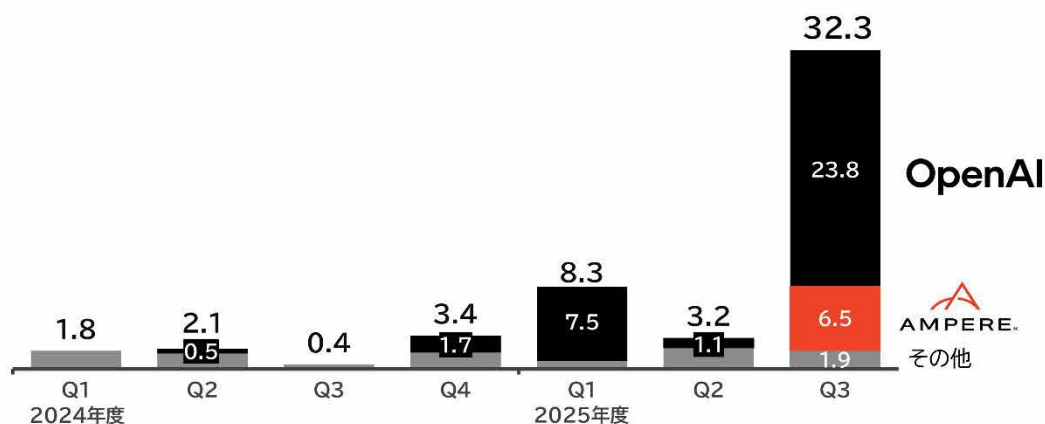
最後に財務戦略です。

まず、財務方針には今年もいささかの変更もなしということです。LTVも25%未満、手元流動性も常に社債償還2年分を堅持していく。先ほど申し上げたとおり、さまざまな投資も今後も活発に、積極的にやっていきたいと思います。ただ、それはこの財務方針あってのことだと思っています。安全性を維持しながら成長を実現していきたいと思っています。

## 投資額 (SBG+SVF)

SoftBank Group

(\$ B)



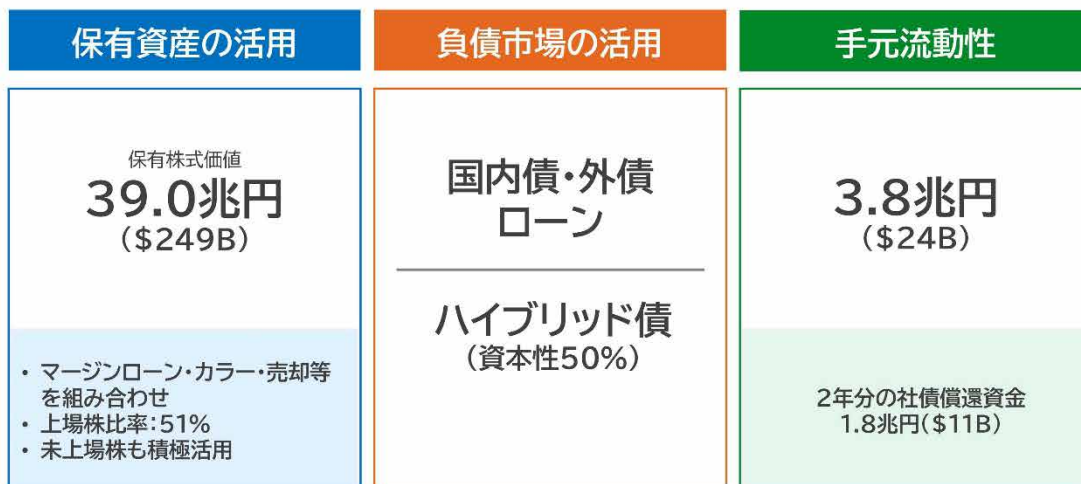
SBG投資額: SBG、主な100%子会社およびロボHDからの投資額(グループ内取引および債券投資の投資額を除く)。Ampereiについては同社買収のための支出額(Armへの支払額を含む)。その他の子会社化した投資については、連結キャッシュ・フロー計算書上の「子会社の支配権獲得による取戻」

SVF投資額: 連結キャッシュ・フロー計算書上の「SVFの投資の取得による支出」。ただし、OpenAIについては売却額をネットして表示

53

投資額の推移を見ていただくと、この9カ月はかなり大きく、第1四半期で83億米ドル、第2四半期で32億米ドル、そしてこの第3四半期で323億米ドルと、400億米ドル、約6兆円を超える投資を行います。冒頭に数字でご覧いただいたとおり、LTVも20%を切っていて、手元流動性も3.8兆円を維持できている。やはり財務ポリシーをちゃんと意識した財務活動が重要なテーマだと思います。

## LTVに配慮しながらあらゆる調達市場にアクセス



2025年12月末現在  
1ドル=156.56円にて換算  
手元流動性=現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+債券投資+借入枠の未使用金額。2025年12月末の借入枠の未使用金額は9,452億円相当(コミットメントライン)。SBG単体手元流動性に含まれる債券投資の一部を主な担保としたPBローン残高4,698億円を控除

調達手段はどうしているのか。われわれは投資会社、しかもどちらかというとは自己勘定で投資をしながら、これだけの規模になっている。さらに上場企業というのは世界的に見ても珍しいです。

そんな中で、われわれも特色のある財務活動をやってきています。まず、何よりも40兆円近い保有資産を活用するのは当然でして、この保有資産価値を背景にしたさまざまな調達活動をまず考えます。例えば、株式担保ローンですが、マージンローンやデリバティブ、フォワードなども活用したカラー取引です。

それから、ポートフォリオの入れ替えもやはり大事で、売却も行います。その結果、現時点で上場株比率は50%を超えています。上場株はファイナンスには最も活用しやすいアセットですが、われわれは未上場株も調達ソースとして積極活用している辺りが特徴かもしれません。

そして、われわれは適度なレバレッジをかけていくことで、株式投資家にも、クレジットの投資家にもご満足いただけるような市場との向き合い方を行ってきています。国内債や外債、ボンドマーケットです。

国内債においては、そのマーケットとして、個人向けリテール債や機関投資家向け社債、そして、外債だけではなくローンも、国内銀行を中心とするローン投資家、海外銀行などを中心とするローン投資家とも密接なコミュニケーションをとりながら調達も行っています。

また、純粋な負債ではなく、起債することで資本性を50%確保できるハイブリッド社債、ローンも毎年継続的に行っています。こういう活動を行いながら、現時点で手元流動性が3.8兆円あるわけです。

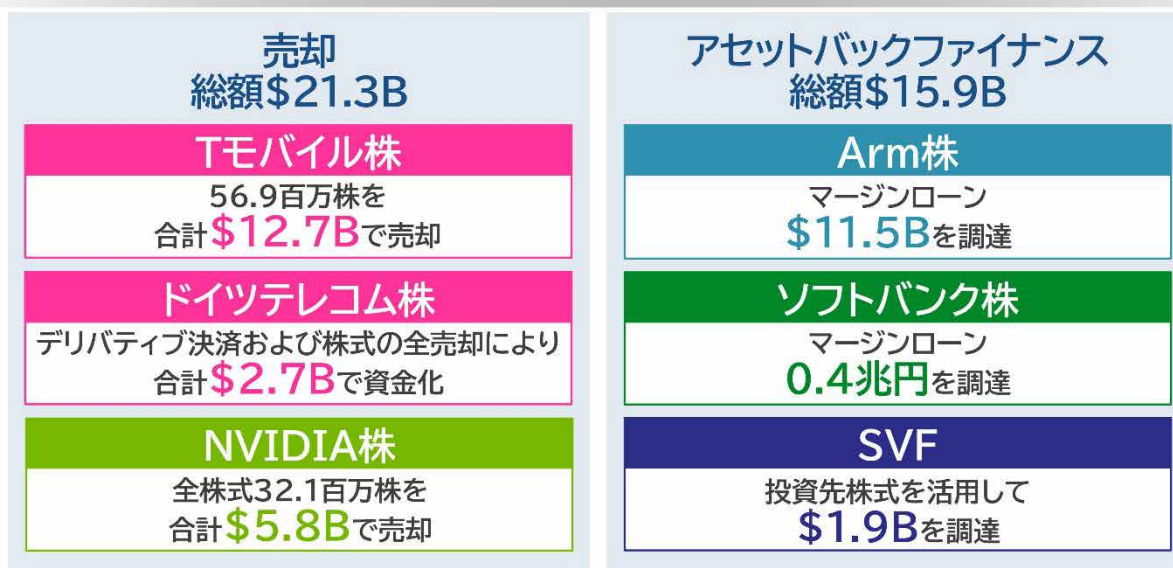
負債市場の活用が投資会社にとってどういう意味があるかということですが、やはり投資会社の基本的な財務活動の構造というのは、投資回収をして、さらにそれを新規投資に充てていくわけで

す。ただ、投資回収と新規投資は必ずタイミングがずれるのです。このずれを補うのがレバレッジです。

レバレッジを上手に活用することで、投資のタイミングを機会損失することなく、そして、ベストなタイミングで回収することができるわけです。これをつなぐのが、実はレバレッジの意味です。われわれはこれを上手に活用し、適度なレバレッジをかけていくことで、安全性を保ちながら、投資アセットの拡大を実現していけるということだと思います。

## 保有資産の活用（2025年度Q1-Q3実績）

SoftBank Group



1ドル=156.56円にて換算  
Tモバイル株:2025年12月末保有株式:28.5百万株、公正価値\$5.8B。なお、2025年度Q4に12.5百万株を\$2.3Bで追加売却済

55

保有資産の活用です。実績としてどんなことをやったのか。左側はアセットの入れ替えで、Tモバイル株やドイツテレコム株、NVIDIA株などを売却して、これを新たな新規投資に充てています。総額で213億米ドルの売却を行いました。

また、保有資産を活用したアセットバックファイナンスでは、Arm株やソフトバンク株式会社の株式、またSVF投資先の価値を活用して159億米ドルの調達を行いました。

われわれの中でも常に議論をしながら、それぞれの調達方法の選択、意思決定を行っている状況です。

## 社債発行とローンにより総額3.2兆円を調達

	調達額	返済・償還額	純調達額
<b>ブリッジ ローン</b>	<b>2.1兆円</b> OpenAI用:\$7.5B Ampere用:\$6.5B	<b>(0.3兆円)</b>	<b>1.8兆円</b>
<b>シニア 社債</b>	<b>1.7兆円</b> 円建:1.2兆円 外貨建:\$4.2B相当	<b>(0.8兆円)</b> 円建:5,000億円 外貨建:\$2.2B相当	<b>0.9兆円</b>
<b>ハイブリッド 社債</b>	<b>0.6兆円</b> 円建:2,000億円 外貨建:\$2.9B相当	<b>(0.2兆円)</b> 円建:1,770億円* 外貨建: -	<b>0.5兆円</b>

1ドル=156.56円、1ユーロ=184.33円にて換算  
\*円建てハイブリッド債1,770億円:2026年2月に償還済

56

この9カ月間の負債の活用を見てみます。負債というのは当たり前ですが、返さないといけない。これはちゃんと社内でもよく言っとかないといけない。どんどん借りてしまうとろくなことはない。ちゃんと返さないといけない。

例えば、まず買収に伴うブリッジローンを組成して投資を行うこともあります。昨年も OpenAI への大型追加投資のうち1回目の投資や、Ampere の投資などを対象にした大型のブリッジローンなどを組成しました。返済償還も行いながら純調達が1.8兆円。ただ、これはブリッジローンですから、この償還に対してさらに調達を行っていくことになります。もちろん準備済みです。

また、シニア社債は9カ月で1.7兆円の起債を実行しています。そのうち8,000億は償還対応です。私たちは年間にだいたい8,000億円から1兆円ぐらいの社債償還を迎えるわけですが、投資家の皆さまには償還のタイミングで、例えば、これまで5年間ありがとうございましたとお金をお返しするわけです。お返しするお金は手元に十分ある。だって、2年間の社債償還資金が手元にあるわけですから。お金がちゃんと手元にありますということは、投資家もわかっているわけです。

ただ、投資家はまた運用しなければいけないわけですから、そこに対して、償還のタイミングでさらにリファイナンスに対応するような、新たな社債の発行を準備して、いかがですかとご提案する。そのタイミングでは、既存社債の償還を迎える投資家だけではなく、他の投資家の皆さまにも投資機会を差し上げたい。こんなことを繰り返していくと、純増していくわけです。その結果が、純増額0.9兆円ということになります。

一番下のハイブリッド社債については、起債額はシニア社債やローンに比べれば小さいですが、われわれは6,000億円の調達を行っています。償還額が2,000億円、5,000億円の純調達額です。

このように、負債というのは調達、それから償還、返済、そして償還タイミングでのまた新たな調達を、投資家と対話しながら、上手にマーケットを活用していく。負債を上手に使うことでエクイティバリューが上がるわけですから、おそらく社債投資家だけでなく株主の皆さまにも満足いただけるということになるのではないかなと思います。

## 2025年度Q3決算まとめ

SoftBank Group

1 OpenAIへの追加出資完了、持分約11%に  
ASIに向け他の投資も強化を継続

2 Q1-Q3の純利益 **3.17兆円** (前年同期比+2.54兆円)

3 NAVは**30.9兆円** (2025年9月末比▲2.4兆円)

4 財務方針を堅持しながら大型投資実行  
LTV **20.6%** 手元流動性 **3.8兆円**  
(2025年9月末比+4.1ポイント) (同▲0.5兆円)

純利益:親会社の所有者に帰属する純利益

57

最後に決算のまとめですが、冒頭申し上げたとおりです。

私たちの第四半期の決算発表は以上です。ありがとうございます。